

平成21年度 福井県公共事業等評価委員会議事概要

○ 開催日時 平成21年12月21日(月) 13:00～17:30

○ 開催場所 県庁 中会議室

○ 出席者

(1) 委員 10名のうち8名出席

加藤 辰夫 福井県立大学生物資源学部教授

北川 稔 弁護士

桑原 美香 福井県立大学経済学部講師

高津 靖生 NPO法人田んぼの学校越前大野会長

福原 輝幸 福井大学工学部教授

水上 聡子 アルマス・バイオコスモス研究所代表

宮崎 和彦 福井商工会議所理事・事務局長

吉岡 隆治 第一織物(株)代表取締役

(2) 事務局 (農林水産部) 石塚企画幹、松倉森づくり課長、福田森林整備室長
(土木部) 西山技幹、幸道技幹(特定事業)、森下道路建設課長
免河川課長、森岡砂防海岸課長、夏梅港湾空港課長
(総務部) 山田企画幹、滝財務企画課長

○ 議事概要

(1) 開会

(2) あいさつ

(3) 会長、会長代理選出

会長に福原輝幸委員、会長代理に宮崎和彦委員を選出。

(4) 再評価対象事業の審議

《資料…再評価対象事業一覧表、再評価調書(別添資料)ほか》

〔農林水産部評価対象事業について〕

(会長) では、まず、農林水産部の再評価対象事業について説明を求める。

〔地すべり防止事業について〕

〔事務局から農林水産部No.1の事業内容を説明〕

- (委 員) 工事そのものではなく、ブナとかカエデとかの植林等について研究しているか。
- (事務局) この地区では、谷沿いにスギが植えられており、尾根筋はわりと広葉樹が植えられている。今後、地すべり対策と併せ、混広林に仕立てていくことなどを考えていく。
- (委 員) 人の命に関わるものなので、一刻も早く完成させた方がいい。
- (事務局) この中に地区の水道の水源があり、工事により枯れてしまう。新しい水源を対岸に見つけることができたので、これからは進捗を早めていきたい。水抜きをしながら、この水源の保全もあり、工期が遅れた。
- (委員長) 今後の工法についてスピードアップができないか。
- (事務局) 下方の井戸を中継しながら水を抜いており、下から順に工事しなければならぬため、最短でも平成27年までかかる。
- (会 長) できるだけ早く完成させ、効果を早期に出してほしい。
- (委 員) 地すべり自体は平成14年の台風以降止まっているのか。
- (事務局) 上の部分は、工事が完了しておらず、水位が高いため、ひずみ計で年間に4cm程ひずんでいるが、全体的に動きは止まっている。
- (委 員) 大水がくると今のままでは災害が起こる可能性があるのなら、ひずみ計を利用して、危険性が増した時には、住民が緊急に避難できるような態勢は整っているのか。
- (事務局) 年間を通じて観測しているので、そういった異常があれば、当然地元の方に連絡し、避難してもらうこととしている。
- (会 長) モニタリングしながら効果を検証しつつ工事を進めている状況なので、効果が出ているかどうかの精度は時間とともに上がってくるはずである。5カ所の排水ボーリングが必要とのことだが、これの配置や、数を減らしても効果が出るのであれば、この検証もしながら今後進めてもらいたい。本事業は「継続」と評価する。

[土木部評価対象事業について]

- (会 長) 続いて、土木部の再評価対象事業について説明を求める。

[道路改良事業について]

[事務局から土木部No.3の事業内容を説明]

[国道157号]

- (委 員) 大野バイパスが無ければ中縦へアクセスできないのか。また、大野市内でそれほど混雑しているイメージがないが、そのあたりの実態はどうか。
- (委 員) バイパスにアクセスする東西方向の道路がなければ市民に利便性はないと思うがどうか。
- (委 員) 駅周辺や七間通りなどは中心地でありながら限界集落と呼ばれており、若い人は郊外へ出ている。バイパスができるとさらに中心地の人口が減るのではないか。

- (事務局) H17年交通センサスおよびH42将来予想交通量で説明。
中縦の開通により東海北陸道からの、もしくは東海北陸への交通量を見込んでいる。現在でも、特に通勤時間帯などで混雑しており、通過交通を市街地から分離させたい。
また、バイパスには県道と市道が3本程度アクセスしている。
- (会長) どういう時間帯、どの方向で混雑があるのか。バイパス整備によってそれがどれだけ緩和されるのかが明快でない。
- (委員) 観光客は市街地に来ている。バイパス整備と矛盾はないのか。大野の町のために市街地の道路を整備するべきではないか
- (事務局) 市内人口の分布、アクセス道路等整備状況を踏まえ、現況の交通量、流れ方向を説明。バイパス整備による市内交通量の削減と、現道の歩道整備事業の必要性を説明。
- (委員) 大野は豪雪地域で歩道は完全に使えなくなる。安全面からもバイパスは必要。豪雨時には勝山をまわって福井方面へ行く。病院などへのアクセスや生活面からも安全な道として必要である。
- (委員) 東西方向の道路が貧弱なままでは見込みどおりにならないのではないかと。東西方向の道路整備に合わせる形で、全線の整備を急がなくてもいいのでは。遅らせてもいいのでは。
- (事務局) H24の中縦の勝山大野間の完成に合わせたい。
- (委員) 大野は観光面での可能性があり、人を呼び込むために早期の整備と供用開始が必要。
- (会長) 交通停滞の解消、中縦とのアクセスの流れが見えない。バイパス整備による交通量の分散効果と混雑の緩和の効果が読めない。中縦との関連性は分かるが、結論は出しにくい。
- (事務局) H17センサス、H42予測により説明。勝山への交通を迂回させる。中縦整備により大野と福井北部間での時間短縮効果が大きい。
- (委員) 現在の交通量でバイパスが必要なのか。
- (事務局) 交通量から車線数を定めるが、将来交通量では非常に混雑する。
- (会長) 現状で交通混雑が発生しており、中縦が開通することによりさらに交通量が増える。バイパス整備により市内の交通混雑が解消され、歩行者の安全も確保できる、という説明なら分かりやすいが、資料と一致しない。
- (事務局) 資料の内容を整理して、会長と相談させていただきたい。
- (会長) 資料等の内容を確認するため「会長預かり」とする。
私自身が納得できなければ、再度、本委員会で審議することとする。

〔平成21年12月24日、平成22年1月28日
事務局が会長に再説明を行い、「継続」の評価を得る。〕

[国道416号]

〔事務局から土木部No.16の事業内容を説明〕

- (委員) 350m延伸の計画。従来のメートル当たりの単価と同じくらいか
- (事務局) 上下線がセパレートで分かれるほか、橋梁や地下道などの構造物もあるた

め少し割高になる。

(会 長) 本事業は「見直しの上継続」と評価する。

〔港湾整備事業について〕

〔事務局から土木部No.17 の事業内容を説明〕

〔内浦港〕

(委 員) 経済状況等の変化に機動的に対応する見直しであり、休止案に賛成。

(会 長) 本事業は、構造物が安定するところまではやるが、それをもって「休止」と評価する。

〔河川整備事業について〕

〔事務局から土木部No.1 の事業内容を説明〕

〔芳野川〕

(委 員) 目的の中に宅地造成とあったが、福井市はコンパクトシティを掲げている。市と県と整合をとって進めて欲しい。

(事務局) 改修前も宅地が密集していた。市の事業に対するコメントはしにくい。

(会 長) 宅地化は災害になりやすいので、対策としては必要。

(委 員) 市が(宅地造成を)決めたら、県がついていかなければいけない。前々市長が決めた計画だと思うが、国、県、市がやらなければいけないというのをもちと話し合っって進めていけば良いと思う。

(会 長) もう少し、大きなくくりでの事業の進め方への意見という事である。本事業は「継続」と評価する。

〔七瀬川〕

〔事務局から土木部No.2 の事業内容を説明〕

(会 長) 本事業は「継続」と評価する。

〔河内川〕

〔事務局から土木部No.4 の事業内容を説明〕

(会 長) 事業の見直しにより、整備延長、事業費ともに減るという事か。本事業は「見直しの上継続」と評価する。

[大蓮寺川]

[事務局から土木部No.15の事業内容を説明]

- (会 長) 見直しにより工事費が13億円の縮減、工期は4年短縮という事か。
- (委 員) 見直し計画では安全は確保できるのか。当初から2条案でやっていた場合だといくらになったのか。
- (事務局) 安全度は当初計画と変わらず50年確率の雨量を目標に進めている。
事業費については当初から2条案だった場合の費用は算出していない。当初計画に対して手戻りのない計画を進めている。
- (会 長) どちらを先に進めて、いつまでに完成するのか。
- (事務局) 元禄線の方を30年の完成を目標に、立石線の方を36年までに完成させる予定。
- (会 長) 九頭竜川流域懇談会でも、もう少し早く見直ししておけば良かったという意見があった。
本事業は「見直しの上継続」と評価する。

[砂防整備事業について]

[打波川]

[事務局から土木部No.7～11の事業内容を説明]

- (会 長) 打波川については、水系全体の整備計画を見直し中であり、その内容を踏まえた上で、平成22年度の再評価対象事業とする。

[智那洞谷川、宇波西川、鬼谷川、荒島谷川、女神川]

[事務局から土木部No.5, 6, 12, 13, 14の事業内容を説明]

- (委 員) 智那洞谷川はB/Cが1.05と低いが、事業を見直すことはないのか。
- (事務局) 保全人家は12戸あり、夏には天狗岩ファミリーパークに多くの方々が訪れる。また、集会場が大野市の指定避難場所になっており、上流の地区の避難場所にもなっているため、避難場所を守るためにも事業を進めたい。
- (委 員) 避難場所を違う場所に建てることはできないか。
- (事務局) 急峻な地形であり、安全な平地がないことから難しい。
- (委 員) 3基の砂防えん堤を整備する計画であるが、全ての砂防えん堤を整備しないといけないのか。
- (事務局) 流域内で発生する土砂量を3基の砂防えん堤で受け持つ計画であり、3基整備する必要がある。
- (会 長) 他の事業に比べて、智那洞谷川と女神川の進捗率が低いのはなぜか。
- (事務局) 砂防えん堤を設置する所までの工事用道路の整備に時間を要していることから、進捗が遅れている。

(砂防事業全体について)

(委員) 住民が集団で移転するということはあるのか。

(事務局) 砂防事業で施設を整備せずに、集団移転をしていただくということはない。

なお、防災集団移転事業というものがあるが、これは移転費用の一部補助を行うものである。

(委員) 人が住んでいる全ての箇所を整備するのは難しいと思うが。

(事務局) ハード事業とともに、危険箇所を住民に周知するソフト事業もあわせて実施している。

(委員) 集団移転と砂防えん堤の整備をどう折り合いをつけるのか。

(事務局) 住んでいる土地を離れるというのは簡単ではなく、全ての方々が移転に合意し、集団移転するというのは可能性がかなり小さい。

(会長) 残事業もあるので、良いアイデアがあれば積極的に取り入れるなどして、コスト削減を図っていただきたい。

智那洞谷川、宇波西川、鬼谷川、荒島谷川、女神川の各事業については「継続」と評価する。

(3)閉 会